月と修羅

羅悸龍螢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月と修羅

【Ｎコード】

Ｎ８１０８Ｄ

【作者名】

羅悸龍螢

【あらすじ】

日本が幕末という１つの分岐点を通過している時代のもう一つの世界の物語（軽くチャンバラ風味が入ってるだけです）。漆黒の月と紅い修羅と呼ばれる２人組の少し暗くなる時があるお話です。

（前書き）

長編の莠とは関係が直接あるとは言えないけれど無いとも言えない物語です。

白い着物を紅く染め
戦場を駆け抜ける修羅
そしてその傍にはいつも
漆黒の瞳を持つ者がいた

『莠、おい、どこ行ったんだ』
そう呼びかけながらパートナーである朱李乃　莠を探す。
これでもう5回目だ。そろそろ出て来てくれても良いんじゃないか。
そんな事を考えながらまた莠の名前を呼ぶ。
ガサッ
物音がして近くの木から彼女は降りてくる。
『そんなとこにいたのかよ。呼ばれたらすぐに出て来いよ。何度呼ばせる気だよ』
「誠、人の昼寝を邪魔するのはいい加減止めろと言ったろう。何時になったらわかるんだ。」
『そんな事どうでもいいだろ。それより仕事の時間だぞ。』
そう言いながら歩き始めると、後ろから渋々といった様に莠が着いてくる。

俺達の仕事というのは要するにフリーの殺しだな。
組織に指示された人物を暗殺したり、お偉いさんの警護をしたりと様々だ。
時には戦場に駆り出される時もある。
今回は暗殺だった。
その詳細を聞くためにも依頼人の所へと向かっているのだが、
仕事だというのに莠は全くやる気がなく出来るだけさぼりたそうにしている。
しかし、いざ人を斬るという時には別人のようになる。
正直言ってこいつに敵う奴はいないと思う。

そう考えてる内の依頼人との待ち合わせ場所についた。

確認した内容では今回の依頼はとある人物の暗殺ということで、3日後までにという期限付きのようだ。
確認も終わったし帰ろうかという時に呼び止められた。
「漆黒の月、紅い修羅、私の専属にならないか。」
依頼を受けていると、時々このように専属になれと言われる。
ある者は報酬を弾むから、ある者は殺すと脅して俺達を自分だけの物にしようとする。
俺は丁重に断って逃れようとしていたら、珍しく寝ていたはずの莠が話始めた。

「俺とこいつは誰の下にも就かない。嫌ならば力ずくでも納得してもらいこの依頼は無かった事にする。」

あの時のことを思い出しているのだろうか。
その瞳はいつもより感情の籠らない冷たい色を宿していて、静かだけれども迫力があった。
その迫力に負けたのか依頼人は小さな声で「すまない。今のは無かった事に。忘れてくれ。」と言っていた。
依頼人に俺は一言いった。
『それじゃぁ、3日後に報酬を用意していてくださいね』
そして、莠を連れて帰った。

帰り道、俺は莠に訊いた。
『お前、まだあの時のこと引きずってるのかよ』
返事はない。これは肯定ととっていいのだと思う。
暫くの間沈黙が続いた。
「逆に聞くが、お前はあの時のことをどう思ってる。あいつの事は。」
今度は俺が黙り込む番だった。

（後書き）

短編で書くはずがだらだらと行きそうな予感がしたのでこんな中途半端なところで止めました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8108d/

月と修羅

2010年10月11日16時07分発行